

かみかすや わだうちいせき
上粕屋・和田内遺跡

伊勢原市No.206

- 調査期間** 2014年11月1日～中断中
所在地 伊勢原市上粕屋
時代 近世、中世、奈良・平安、古墳
縄文
調査原因 一般国道246号（厚木秦野道路）
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘
調査
遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北西約
3キロの小谷戸崖裾に位置する。



主な調査成果

平成29年度は、2-1①区の調査を行いました。縄文時代の旧地形は、調査区中央付近を境として東西及び南側に向かって傾斜し、崖裾の一部が舌状に延びる地形であることがわかりました。旧石器時代では、かなり急な傾斜となっていました。縄文時代では、徐々にその傾斜が緩やかになるように土壌の堆積が進んだといえます。



J11号住居（和田内2-1①区）

縄文時代の落とし穴状土坑がいつ作られたかの不明ですが、これまでの調査状況から縄文時代早期頃と推測されます。その後、堆積が進み、縄文時代後期になると、環礫方形配石遺構（J11号住居）が作られます。この時期、1区では敷石住居・竪穴住居が発見されているので、広く崖裾を利用していたことが分かります。環礫方形配石遺構は、対岸となる秋山上遺跡でも発見されています。縄文時代の集落としては、秋山上遺跡が主であると推測されますが、その関係性についても今後の検討課題でしょう。